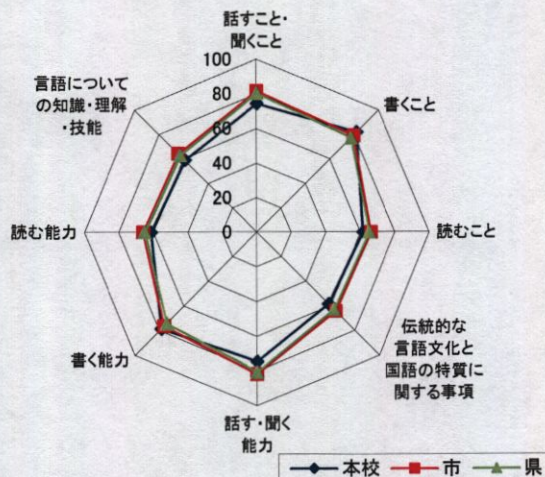


宇都宮市立横川中学校第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	74.4	81.6	80.5
	書くこと	81.8	79.4	77.2
	読むこと	61.4	65.9	65.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	58.5	64.2	62.8
観点	話す・聞く能力	74.4	81.6	80.5
	書く能力	78.6	76.4	74.3
	読む能力	61.4	65.9	65.0
	言語についての知識・理解・技能	59.2	64.4	63.0



★指導の工夫と改善

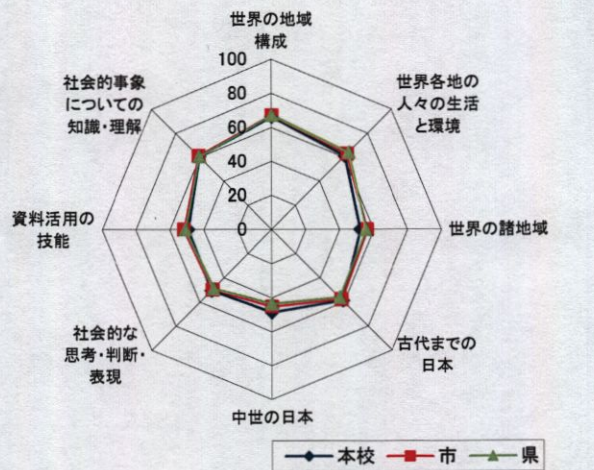
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の内容や質問を正確に聞き取ることができる。 ●構成を考えて聞いたり話したりすることが苦手である。 ●相手に伝わるように話し方を工夫することが苦手である。	自分の意見を伝えるときの構成や話し方の型などを指導することに重点をおく。授業中の話し合い活動で型を使って話すことを指導し、効果的な話し方を身につけさせたい。 相手の話を正確に聞くことができているので、それに対する発言内容を考えるような指導もおこなうことで、相手の意見を受けて自分の意見を深める力も身につけさせたい。
書くこと	○自分の立場を明確に書くことができる。 ○意見の根拠や理由を明確にして書くことができる。 ●指定された文字数で書くことが苦手である。 ●原稿用紙の正しい使い方や文章の構成を意識して書くことが苦手である。	自分の意見を明確にすることができているので、根拠やまとめの書き方について指導していく。接続詞や文末なども意識させたい。また、文章を書くときには必ず条件をつけることで、条件に沿っているか意識させたい。文字数や作文用紙の使い方などについても指導し、条件に合う文章を書く力を身につけさせたい。
読むこと	○登場人物の様子をとらえて、空欄に合う言葉を文章中から抜き出すことができる。 ●段落内容から語句の意味を捉えることが苦手である。 ●話し合いの内容をまとめることができる。	複数の意見や段落内容をまとめることに課題があるため、要点をとらえて内容をまとめる力を身につけさせたい。接続詞や段落の役割は理解できているようなので、文章中の要点に線を引きまとめるという指導を今後も継続的に行っていく。テーマに沿って、意見の要点を読み取ることも指導し、複数の意見を集約する力も今後身につけさせていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○第一学年までに習った漢字を読むことができる。 ○歴史的かなづかいを現代かなづかいに直すことができる。 ●第一学年までに習った漢字を書くことが苦手である。 ●文の成分や品詞に関する知識が定着していない。	文法事項において、文の成分や品詞への理解が曖昧なため、第一学年までに習った文法事項を必要に応じて復習する時間を積極的に設ける。また、今後も助詞や助動詞などの品詞について説明する際には、関連する品詞についても必ず復習することで、知識の定着を図りたい。 漢字の読み書きについては、毎時ミニテストを行うことで、漢字を書く力を身につけていきたい。

宇都宮市立横川中学校第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	66.3	67.1	67.1
	世界各地の人々の生活と環境	60.7	62.6	63.9
	世界の諸地域	51.9	55.9	55.3
	古代までの日本	58.7	57.8	56.2
	中世の日本	48.5	45.1	43.5
観点	社会的な思考・判断・表現	50.5	49.7	48.9
	資料活用 の技能	49.4	51.8	51.0
	社会的な事象についての知識・理解	60.7	61.1	60.6



★指導の工夫と改善

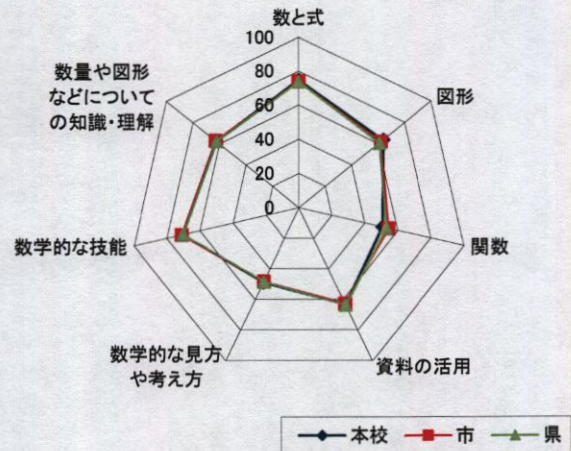
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	○世界の海洋分布、地域区分、主な国々の名称と位置に関しては、市・県の平均と比べ、1～4ポイント高い正答率となった。 ●緯度と経度の理解と、様々な世界地図の活用では、市と比べ、約5ポイント低い正答率となった。	緯度・経度についての理解が課題なので、復習する時間を設け、練習問題等をやりながら、丁寧に説明していくようにしたい。様々な世界地図の活用についても、それに関する問題をピックアップし解かせ、力をつけさせていきたい。
世界各地の人々の生活と環境	○世界の大陸の気候帯については、市とほぼ同等、県よりも約2ポイント高い正答率となった。 ●世界の主な宗教分布、世界各地の人々の住居について、県の平均を約5ポイント下回った。	世界の主な宗教分布、世界各地の人々の住居についての正答率が低かったので、白地図等を利用しながら場所と関連させて理解させることや、視覚に訴える様々な資料を提示するようにしていきたい。
世界の諸地域	○南アフリカ州の熱帯林破壊の資料の読み取りについては、市・県の正答率を上回った。 ●この領域は市の平均正答率を4ポイント下回り、全ての領域の中で、市と比べ最も正答率が下回った領域となった。	世界の諸地域は、一つ一つ整理しないと、各地域の内容が混ざってしまうことが多い。この分野の最後には、まとめの時間をとるなどして、生徒がそれぞれの地域の内容をしっかりと整理できるようにしていきたい。
古代までの日本	○平均正答率は、市・県をともに上回った。全体的によくできており、特に古墳の広まりに関しては市の平均を10ポイント上回った。年代の表し方、平安時代の政治の移りかわり、院政などについてもよくできていた。 ●平城京の位置についての問題の正答率が、市・県を下回った。	人物名や出来事などは、必ず時代と関連づけて理解させるようにしているので、継続していく。資料集などを活用し、都や都市、幕府などの場所も確認するようにしてきたが、今回平城京の場所の問題に関する正答率が低かったため、抜けがないように、しっかり指導していく。
中世の日本	○平均正答率が、市を3.4ポイント、県を5ポイント上回り、全ての領域の中で、市・県の平均を最も上回った。承久の乱や御成敗式目、鎌倉新仏教、鎌倉幕府の衰退についての理解など、多くの問題で、市・県の正答率を上回っている。 ●鎌倉幕府の東アジアのとの関わりについての問題のみ、市・県の平均をやや下回った。	中世に関しては、幕府のしくみや文化、資料の読み取りなど、知識の定着がある程度図られていた。他の時代についてもこのような結果が出るように引き続き指導していきたい。

宇都宮市立横川中学校第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	74.9	74.1	73.8
	図形	63.7	62.0	60.9
	関数	50.5	54.1	52.9
	資料の活用	63.1	62.5	63.4
観点	数学的な見方や考え方	48.8	48.2	48.3
	数学的な技能	71.0	71.0	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	62.8	62.9	62.3



★指導の工夫と改善

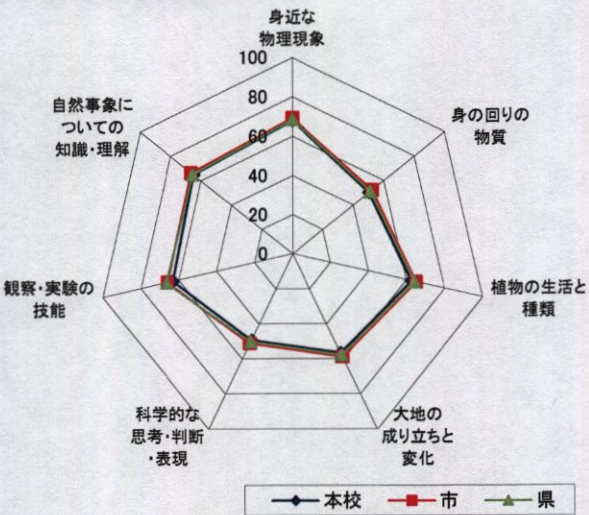
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正負の計算、文字式の計算がよくできる。 ○文字式の利用については、県・市の平均を4ポイント上回っている。また、事象を数学的に表現したり、筋道を立てて、説明することが、県・市の平均より、3ポイント上回っている。 ●四則混合の計算、1次方程式の移行、かっこを含む計算が苦手である。	計算の仕方を理解させ、基礎的・基本的な学力はよく身につけている。また、少し複雑な計算については、繰り返し解くことにより定着させたい。また、文字式の利用や方程式の利用では、多様な表現方法を用い、筋道を立てて説明する活動を意図的に取り入れ、更に力を伸ばしていきたい。
図形	○空間図形の位置関係がよくわかる。また、回転図の見取り図を選択することも県・市平均より4ポイント上回っている。 ○図形の計量(表面積・体積)がよくできる。	図形の位置関係がよくわかり、理解力に優れている。また、基本的な図形の計量する力もよく身につけている。今後は、図形に関して総合的に説明する問題にも多く取り組み、身につけさせたい。
関数	○点の座標を読み取ることができる。 ●関数の数量関係を式やグラフや表で表すことが県・市の平均より5ポイント低く苦手である。	関数の数量関係を式、グラフ、表で表す基礎的・基本的な力を、繰り返し解くことでしっかり身につけさせたい。それらを活用し、複数の表現方法を相互的にとらえながら、問題を解決させる力も養っていききたい。
資料の活用	○中央値などの意味をよく理解している。 ○資料の傾向を数学的な表現を使って、説明することができる。 ●度数分布表から相対度数を求めることが苦手である。	度数分布表やヒストグラムの関係や基礎的・基本的な用語の意味をよく理解している。また、資料の傾向を数学的な考えを用いて説明する機会を多く設け、表現する力も養っていききたい。

宇都宮市立横川中学校第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	68.2	69.2	68.6
	身の回りの物質	50.4	52.2	51.1
	植物の生活と種類	62.5	64.8	64.1
	大地の成り立ちと変化	56.6	58.7	57.8
観点	科学的な思考・判断・表現	49.2	51.1	50.1
	観察・実験の技能	63.1	66.0	66.5
	自然事象についての知識・理解	65.1	66.5	65.4



★指導の工夫と改善

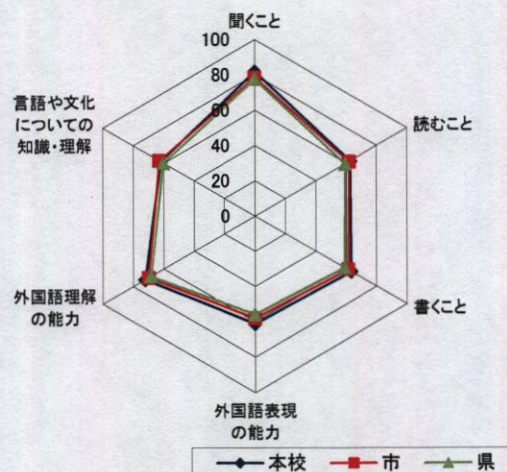
○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	○ある重さをつるしたときのばねの伸びを、グラフから求める問題について、県の平均を3.2ポイント、市の平均を2.6ポイント上回っており、よくできている。 ●音の大きさと弦の振れ方との関係を答える問題で、県の平均より6.3ポイント、市の平均より7.8ポイント下回っており、苦手である。	音の大きさと弦の振れ方について、ギターやモノコードを使って、実感を伴った理解ができるように、復習を行いたい。 また、計算問題に苦手意識がある生徒が多いため、例題を丁寧に説明し、解き方を定着させたい。
身の回りの物質	○混合物の沸騰が始まると、温度の上がり方がゆるやかになることについて答える問題で、県の平均を6.8ポイント、市の平均を4.4ポイント上回っており、よく理解している。 ●気体を発生させる方法と気体の性質について答える問題で、県の平均より5.6ポイント、市の平均より8.7ポイント下回っており、苦手である。	グラフを読み取る問題がよくできているので、今後もグラフをかく機会を積極的に取り入れ、どのような種類のグラフの読み取りにも対応できるような能力をつけていきたい。 気体の性質について復習や小テストを繰り返し行い、実力を定着させたい。
植物の生活と種類	○対照実験を行う理由を説明する問題で、県の平均を5.8ポイント、市の平均を5.1ポイント上回っており、よく理解している。また、正しいスケッチの方法を理解できている生徒が多く、校内正答率は87.8ポイントだった。 ●顕微鏡の正しい使い方の手順を答える問題で、県の平均より11.7ポイント、市の平均より7.2ポイント下回っており、すべての問題を通して1番低い正答率であった。	実験・観察の際にスケッチをする機会を、引き続き多く取り入れていきたい。 顕微鏡の使い方・手順をよく理解させ、正しく使用できるように指導に力を入れたい。授業で顕微鏡を使用する際に、使い方・手順をもう一度復習し、再確認させたい。
大地の成り立ちと変化	○堆積岩の構成物質を答える問題で、県の平均を6.7ポイント、市の平均を4.6ポイント上回っており、よく理解している。 ●火山岩のつくりを答える問題で、県の平均より12.3ポイント、市の平均より15.4ポイント下回っており、苦手である。	火山岩のつくりについて、深成岩とのつくりと合わせてその特徴を復習させたい。 また、堆積岩の特徴についても、繰り返し復習を行い、その岩石ができる過程を理解させたい。

宇都宮市立横川中学校第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	81.9	78.7	77.8
	読むこと	62.5	61.7	59.2
	書くこと	63.2	61.0	58.7
観点	外国語表現の能力	61.0	57.9	55.8
	外国語理解の能力	72.3	70.1	68.4
	言語や文化についての知識・理解	62.1	63.0	60.4



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○ 宇都宮市平均より3.2ポイント、県平均より4.1ポイント高い正答率だった。特に、対話文の聞き取りと応答の問題はかなり正答率が高かった。また、まとまりがある英文を聞き取り、答える問題でも力を発揮した。	小中連携により、小学校と中学校で同じALTが指導し、一貫した言語活動が行われた結果、聞く力が伸びたと考えられる。今後もALTと協力し、指導に当たっていききたい。 また、徐々にリスニング問題の難易度が上がってくるので、メモの取り方を工夫し、きちんと情報を把握できるように指導していききたい。
読むこと	○ 宇都宮市平均より0.8ポイント、県平均より3.3ポイント高い正答率だった。まとまりのある文を読んで答える問題や、対話文を読んで空欄に適切な文を入れる問題ではかなり正答率が高かった。 ● 手紙文を読んで答える問題は、宇都宮市と県の平均を下回っていた。	日々の学習において、基本文の学習を継続的に行っている。基本文理解の積み重ねが、読解力につながっている。今後も継続していききたい。 手紙文など、さまざまなタイプの英文に慣れさせ、どのような種類の長文にも対応できるような能力をつけていききたい。
書くこと	○ 宇都宮市平均より2.2ポイント、県平均より4.5ポイント高い正答率だった。特にテーマに基づく英作文では、かなり正答率が高かった。 ● 語順を理解し書く問題では、市平均より正答率が低い分野もあった。	日々の学習において、状況や条件に応じた英文を書く学習活動を積極的に行った成果が出ている。今後もコミュニケーション活動を通し、書く力をさらに高めていききたい。 しかし、書くことはまず基本文をまねることから始まるので、英単語の語順の指導にさらに力を入れ、学力向上を図りたい。